

定期報告（ウルグアイ内政・外交：2018年3月）

【内政】

1 ガンディーニ下院議長の就任

1日、マイア前下院議長（与党F A）の任期終了に伴いホルヘ・ガンディーニ下院議員（国民党）が下院議長に就任し、同日、第48回4期目の議会が開会した。下院議長の任期は1年間で、慣例として各党から輪番制で議長が選出される。ガンディーニ下院議長は、議会の透明性を強化する目的で、既に行われているYouTubeによる議会中継の他、インターネットラジオ中継、予算委員会等の各種委員会における討議の公開を発表した。また、節制の重要性を強調し、下院議長就任後の乾杯は不必要な支出であるとして中止した。なお、毎年3月1日に行われることが恒例となっていたバスケス大統領の施政方針演説が今年は実施されなかった。

2 農牧非常事態宣言対象地域の拡大

13日、ベネッチ農牧水産大臣は、干ばつによる農牧非常事態宣言の対象地域の拡大を発表し、セロ・ラルゴ、フローレス、トレインタ・イ・トレスの3県を新たに追加し、既に対象であったコロニア、フロリダ、リオ・ネグロ、ロチャ、ソリアノの5県についても県内の対象地域を拡大した。

3 自動車使用税滞納に関する規則改正

14日、県知事会議が開催され、自動車使用税（Patente）の滞納に関する規則が全19県知事の合意を得て改正された。自動車使用税は自動車所有者が各県庁に毎年（分割払可）支払う税金の一種で、納付遅延による罰金が巨額となり徴収が不可能となるケースが問題視されていた。当初、滞納金の帳消しを主張する県知事グループとそれに反対するモンテビデオ県知事が対立していたが、最終的に罰金がこれまでの20%から5%に引き下げられた他、滞納金の分割払い等が可能になった。

4 政権支持率に関する世論調査

3月に実施されたCifra社による世論調査結果で、バスケス大統領の政権支持率は27%となりF Aが政権の座に就いた2005年以来最低を記録し、また、バスケス大統領の施政を評価しないとの回答は50%に上った。同社の前回調査（2017年10月）では政権支持率は36%あり、急落の要因として農牧生産者による抗議活動、特に、農牧水産省前でバスケス大統領と一部の農牧生産者が激しい口論となった一件が挙げられ、加えて1月の光熱費等の値上げ、殺人事件の続発による治安悪化への批判が高まったためと推測される。また、バスケス大統領への親近感も51%から38%に下落した。

5 モンテビデオ県知事の外遊に対する批判

26日付エル・パイソ紙は、マルティネス・モンテビデオ県知事が2017年に13回の海外出張を行い、就任以来25回もの外遊を行ったと報じ、同県庁の局長級13名の海外出張を含めるとその数は98回に上り、目的及び成果が不明瞭な外遊が行われていると指摘した。野党は、県庁は旅行代理店ではないと批判し、過去2年間で県庁職員の海外出張及びその経費が急増しており海外出張に関する報告書の提出を求めるとしている。

【外交】

1 カラマノフ露産業貿易副大臣との会談

2日、ベルガミノ外務次官はウルグアイを訪問中のカラマノフ・ロシア産業貿易副大臣と会談し、良好な二国間関係を評価し両国の協力及び経済貿易関係強化の重要性を強調した。また、本年モスクワで開催予定の二国間経済貿易関係強化を目的とする第2回ウルグアイ・ロシア合同委員会及び両外務省間の政策協議に関する意見交換を行った。

2 シンガポール産業貿易省新興市場総局長のウルグアイ訪問

5日、ニン・ノボア外相は、ウルグアイを訪問中のチョング・シンガポール産業貿易省新興市場総局長兼メルコスール・シンガポール経済協定主席交渉官（近い将来、同協定の交渉開始が見込まれている）と会談した。両者は、メルコスール・ASEANの枠組みにおける、メルコスールとシンガポールの良好な関係を評価するとともに、2017年12月から行われているメルコスール・シンガポール貿易協定交渉の予備的対話の重要性を強調した。8日、アスンシオンにおいてメルコスールとシンガポールは経済協定交渉の開始に向けた会議を実施した。

3 多国間水路委員会（CIH）本部協定署名

9日、ニン・ノボア外相は、メルコスール・カナダ経済協定交渉開始に関する会合の枠組みでパラグアイを訪問し、フォリー亜外相、ヌニェス伯外相、ロイサガ・パラグアイ外相と共に多国間水路委員会（CIH）の本部協定に署名した。同協定によりパラグアイ・パラナ川における河川交通に関する体制が強化され、周辺国による水上交通の管理及びインフラ整備を通じた地域統合に向けた新たな取り組みが期待される。

4 ベラルーシ共和国外務次官及び同国中銀総裁のウルグアイ訪問

9日、ベルガミノ外務次官は、ウルグアイを訪問中のシェスタコフ・ベラルーシ共和国外務次官及びカラウル同国中銀総裁と会談した。双方は、経済貿易合同委員会の発足の可能性及び両国の一般旅券保有者への相互査証免除等、多様な二国間案件及び国際的事項に関する意見交換を行った他、貿易及び投資拡大に資する協力関係の発展に関する関心を表明した。

5 トポランスキー副大統領等のチリ大統領就任式出席

11日、トポランスキー副大統領及びニン・ノボア外相はウルグアイ政府を代表し、ピニエラ・チリ大統領就任式に出席した。就任式終了後、トポランスキー副大統領はピニエラ大統領主催の昼食会に、ニン・ノボア外相はチャドウィック内務大臣による昼食会にそれぞれ出席。また、10日、両ウルグアイ政府代表はバチェレ前大統領及びムニョス前外相共催の夕食会に参加した。なお、ピニエラ大統領就任式にはラカジェ・ポウ上院議員（国民党）も出席した。

6 西川公也内閣官房参与・元農林水産大臣のウルグアイ訪問

12日、ウルグアイを訪問中の西川公也内閣官房参与はベネッチ農牧水産相と会談し、ウルグアイの家畜生産システム、トレーサビリティシステム、家畜衛生条件等を確認するために農場を視察した他、農業生産者団体と会合を行った。

7 キム世銀総裁のウルグアイ訪問

21日、キム世銀総裁はウルグアイを訪問し、バスケス大統領と会談した他、コッセ工業エネルギー鉱業相、ガルシア大統領府予算企画庁長官が同席するニン・ノボア外相主催の昼食会に出席し、トポランスキー副大統領及びガンディーニ下院議長と会談した。また、キム総裁は「人的要因」と題するフォーラムで講演し、ウルグアイの社会正義及び社会的平等に対する真摯な取り組みを評価する一方、貧困層の低い進学率等ウルグアイの教育システムに対する懸念を表した。

キム総裁は、同じくフォーラムに参加したルガノ・ウルグアイ・サッカー代表チーム元主将に対し、世銀と協力しサッカーを通じた教育への貢献を呼びかけた。

8 ペルー情勢及びリマ・グループに対するウルグアイの立場

21日、バスケス大統領は、クチンスキー・ペルー大統領宛の書簡を発出し、ベネズエラの第8回米州サミット（4月14日開催）への招待取り下げに関する決定の再考を訴えた。同日、国内で汚職等を追及されていたクチンスキー大統領が辞任を発表。同大統領の辞任に関し、23日、ニン・ノボア外相は「憲法に則ったプロセスによる辞任であっても、一国の大統領が収賄容疑で辞任することは痛ましく、ペルーの状況は遺憾である」と述べ、同状況が民主主義への攻撃であり、人々に民主主義及び政党不信を植え付けると懸念を表した。

9 コンゴ(民)共和国へのPKO追加要員派遣の予定

22日付ブスケダ誌は、ニン・ノボア外相が年内に国連コンゴ(民)安定化ミッション(MONUSCO)へのPKO派遣を現在の800名から1600名に倍増することを検討していると述べた旨報じた。ウルグアイは2001年からコンゴにPKO要員を派遣しており、現在、部隊の大半がキンサシャに駐在し、空軍所属の140名が多数の武装集団が活動する南キブの山岳地域で上空パトロールにあたっている。一方、2017年5月にハイチから撤退した250名のウルグアイPKO要員が、現在、コロンビア、中央アフリカ共和国、インド・パキスタン国境、レバノンに監視員として派遣されている。これまでウルグアイは4万人以上のPKO要員を派遣しており、殉職者は34名に上る。

10 ウルグアイ・フィンランド外相会談

23日、ニン・ノボア外相はウルグアイを訪問中のソイニ・フィンランド外相と会談し、ウルグアイはフィンランド資本の世界最大の接受国であり、その投資総額はウルグアイのGDP3%に匹敵すると述べた。ソイニ外相は、情報通信大手ノキアを含むフィンランド企業が再生可能エネルギー、リサイクル、天気予報など多様な分野の対ウルグアイ投資に関心を示していると述べた。翌24日、両外相はリオ・ネグロ県にあるフィンランド資本製紙大手のUPM社のセルロース工場を視察。今回、フィンランド外相としては初めてのウルグアイ訪問となった(当館注:UPM社はウルグアイに第2工場建設を予定しているが、その前提条件として鉄道網整備等をウルグアイ政府に求めており、2022年2月までに最終的な投資決定を行う予定)。

11 ウルグアイ・中国サッカー交流

26日、ウルグアイ代表チームは2018年国際サッカー大会「中国カップ」で優勝した。中国カップに参加したのはウルグアイの他、中国、チェコ、ウェールズの全4チーム。中国南部の広西チワン族自治区南寧市で、中国サッカー協会、ワンダ・スポーツ・ホールディングス、広西チワン族自治区、スポーツ局及び南寧市の共催で行われた。また、2016年10月に署名されたスポーツ分野の二国間協力協定に基づき、ウルグアイ人コーチの指導によるサッカー研修所の第1号が河北省唐山市に開設される予定となっており、3月後半、エルナンデス・スポーツ庁特別プログラム調整官が訪中し協議を行った。同研修所にはウルグアイ・サッカー協会所属のコーチが派遣され、ウルグアイ青少年サッカーリーグで用いられる指導法「未来へのゴール」を導入予定。同プログラムにより13才~19才を対象とした、教育、健康、競技の各側面の発達を促すことが期待されている。

12 ベルガミノ外務次官の中国訪問

29日、ウルグアイ・中国外交関係樹立30周年の枠組みで、ベルガミノ外務次官及びQin Gang

中国外務次官出席のもと第9回ウルグアイ・中国政策協議が北京で開催された。双方は二国間の戦略的関係性を評価するとともに、両国間におけるハイレベル訪問の促進及び一帯一路構想に対するウルグアイの支持を通じた更なる関係強化を図る両国の意思を再確認した。近年、ウルグアイと中国の貿易は大幅に拡大しており、2018年第1四半期のフリーゾーンを除く中国への財輸出は前年同期比63%増加した。対中輸出は年間12億米ドルに達しウルグアイの輸出総額の30%を占め、ウルグアイで生産される牛肉の半分が中国に輸出されている。なお、ベルガミノ外務次官は訪中後、モンゴル及びアラブ首長国連邦を訪問した。

【要人往来】

○往訪

- 9日、ニン・ノボア外相のパラグアイ訪問（メルコスール・カナダ経済協定交渉開始に関する会合等）
- 10日及び11日、トポランスキー副大統領、ニン・ノボア外相の訪智（ピニェラ智大統領就任式出席）
- 16日、ニン・ノボア外相のパラグアイ訪問（EU・メルコスールFTA交渉関連会合）
- 26日、アストリ経済財務相の訪智（第30回ラ米地域財政政策会議出席）
- 29日、ベルガミノ外務次官訪中

○来訪

- 11日及び12日、西川公也内閣官房参与・元農林水産大臣
- 21日、キム世銀総裁
- 23日及び24日、ソイニ・フィンランド外相

(了)